JIPPO「屋外で伸び伸びと」

屋内避難の子ども招き林間学校

宗派が設立母体のNPO法人JIPPO（ジッポウ）はこの夏、福島第1原発事故の影響が大きい福島県南相馬市の児童や生徒89人（保護者9人）を京都、長野、富山に招待、それぞれ4泊5日の林間学校を開いた。

屋内避難命令が出ている南相馬市の小中学校に通う子どもたちに「思いきり外で遊ばせてあげたい」と立ち上げた「南相馬こどものつばさ実行委員会」（西道典代表＝南相馬市PTA連絡協議会会長）がJIPPOに協力を依頼し、実現した。

8月7日からの京都コースには34人（保護者4人）が参加。JIPPOが手配したバスで京都を訪れ、宿泊は龍谷大学セミナーハウスともいき荘（京都市上京区）、山科別院（同市山科区）などを利用。龍谷大学の学生ボランティアらが同行し、京北地域で川遊び（写真）や乗馬体験など野外活動をしたほか、本願寺や二条城を訪れるなど、京都での夏休みを満喫した。

横山直道さん（14）は妹の珠李さん（9）と参加。「マスクも着けず半袖で思い切り遊べたし、新しい友達もできた。避難所を転々とし、今は南相馬の仮設住宅で生活しているが、窮屈で苦しい。元通りに外で遊べるようになってほしい」と話し、折笠聡一郎さん（15）は「こんなに楽しい旅行ができて感謝している。地震で当たり前のことが当たり前にできないけれど、この旅で元気をもらったし、頑張っていこうと思った」と笑顔を浮かべた。

ボランティアの龍谷大生は「地震、津波、原発事故で、子どもたちに対して勝手に暗いイメージを持っていたので、元気な姿に驚いた。『家が津波で流された』『お母さんと離れて暮らしている』などと厳しい現実をさらりと言うが、心の傷は深いと思う。早く元の環境に戻れるよう願っている」と話していた。

また、横山直道さんの母・由香さんは今後に不安をのぞかせながらも、「来て良かったと本当に感謝しています。子どもたちの表情も変わり、元気になった」と感謝していた。

長野コースは7月25日から27人（同2人）が参加し長野県富士見町で、富山コースは8月19日から37人（同3人）が参加し富山県上市町の剣（つるぎ）青少年研修センターで、それぞれ行われた。

JIPPOの中村尚司専務理事は「子どもたちに野外で伸び伸びと過ごしてほしかった。宗派をはじめ、各自治体の支援をいただき感謝している。風評被害を含めた原発被害が終息するまで支援を続けていきたい。活動に協力してほしい」と話していた。

JIPPOは支援活動に協力する会員を募集中。問い合わせは同事務所☎075（371）5120。